

科目名	創造演習 I	英語科目名	Creative practice I
開講年度・学期	平成23年度・前期	対象学科・専攻・学年	建築学科 1年
授業形態	演習	必修 or 選択	必修
単位数	5	単位種類	履修単位(30時間単位)
担当教員	豊川斎赫、大島隆一	居室(もしくは所属)	建築学科棟 2階
電話	0285-20-2834 豊川 0285-20-2844 大島	E-mail	toyokawa-s@oyama-ct.ac.jp o-shima@oyama-ct.ac.jp
授業の達成目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育目標(JABEE)	JABEE 基準要件
前期1 木や土を使って立体的な造形力・創造性を養う。	②		
2 チームワークを養いながら自分の考えをまとめ、立体化する。	③		
3 演習林や文化財の見学を通じて、栃木の環境を感じ取る。	①		
後期1 製図によるきれいな線が描ける	②		
2 立体を想像し、図面に描ける	②		
3 模型製作で、道具を的確に使い、精密に材料を切ることができる	②		
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
前期: 達成目標1 各課題に対して、提出内容(締め切りへの厳守と完成度)を設定水準で評価する。 達成目標2 チーム内での協調性を授業態度などで評価する。 達成目標3 校外演習では担当教官の指示に従い、感想をレポートにまとめる。			
後期: 達成目標1 および3 は、時間内での提出物内容(完成度と正確度)と中間試験を設定水準で評価する。 達成目標2 理解度に対し作品提出スピードとチェック回数で評価し、正確度も評価する。			
評価方法			
前期: すべての提出物への評価、及び出席回数、授業態度で評価する。			
後期: ほぼ毎週の課題の提出作品を評価する。 提出作品毎に 100 点満点とし、作品の理解・正確度、きれいさ、デザイン性を減点法により評価する。 課題が未提出や不出来の場合は評価できないので、後日提出を促すが評価は若干下がる。 全ての提出作品を平均した評価を成績とする。			
前期と後期の成績を平均して学年末の成績とする。			
授業内容			
前期 (1) ガイダンス(ブリッジコンテストの概要説明、及びチーム分け) (2) ブリッジコンテスト入選作の模倣、及び破壊実験(約三週) (3) ブリッジコンテスト出品作の作成、及び破壊実験(約三週) (4) 宇都宮大学農学部演習林での実習(一週) (5) 栃木県内の文化財(馬頭広重美術館などの)見学と栃木蔵フォーラムへの参加(一週)			
後期 1.線 2.文字 3.双曲線 4.モアレ、ペン、スケッチ 5.立体表現 6.1 点透視図 7.2 点透視図、影 8.図法中間試験 9.3 面図 10. " 11. " 12. " 13. " 14. " 15.Cube 模型と返却と雑誌			
キーワード	建築構造力学、デザイン、間伐材、線の構成、レタリング、立体の構成、アイソメ、アクソメ、模型		
教科書	なし		
参考書	1. 武者英二十永瀬克己「建築デザインの製図方法から簡単な設計まで」彰国社(1982) 2. 山田由紀子『建築とデザインのための図形科学』		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	---		
現学年の関連科目	建築概論		
次年度以降の関連科目	建築製図 II 建築設計 IA 建築設計 IB 建築設計 IIA 建築設計 IIB		
連絡事項			
前期は、カッターマット、カッター、軍手、雨合羽、長靴、および演習林までのバス代が必要 後期は、 1. 授業方法は最初の 20 分程度課題説明、その後演習となる。 2. 課題を自宅で行う場合もあり製図板が必要となる。製図用具や用紙、画材の知識を持っておくこと。 美しい線を引く、図形を描くための集中力を身につけて欲しい。最初は建築分野の作図や模型の作業に戸惑いがあると思うが、必ずみんなが達成できるレベルを設定しているのであきらめないで授業に取り組んで欲しい。			
シラバス作成年月日	2011.3.28		